

令和5年度長崎県高等学校新人体育大会柔道競技実施要項

- 1 主催 長崎県高等学校体育連盟
長崎県教育委員会 長崎県柔道協会
- 2 後援 佐世保市教育委員会 佐世保市柔道協会
- 3 主管 長崎県高等学校体育連盟柔道競技専門部
- 4 日時 令和5年11月4日(土)・5日(日)
11月4日(土) 審判監督会議10時30分
団体試合11時00分 試合開始
個人計量 団体戦終了後
5日(日) 審判監督会議9時30分
個人試合10時00分 試合開始
- 5 会場 県立武道場(佐世保市)
- 6 参加資格
 - (1) 参加者は長崎県高等学校体育連盟及び長崎県柔道協会に加盟している生徒で、柔道競技実施要項により、参加資格を得た者に限る。
 - (2) 令和5年度長崎県柔道協会を経て、全日本柔道連盟に登録した者に限る。
 - (3) 年齢は、西暦2005年(平成17年)4月2日以降に生まれた者とし、1、2年在学生徒に限る。但し、同一学年での出場は1回限りとする。
 - (4) チーム編成において、全日制課程・定時制課程・通信制課程の生徒による混成は認めない。
 - (5) 統廃合の対象となる学校については、当該校を含む合同チームによる大会参加を認める。
 - (6) 転校後、6ヶ月未満の者は参加を認めない(外国人留学生もこれに準ずる)。但し、一家転住等によりやむを得ない場合は、県高等学校体育連盟会長の許可があればこの限りでない。
 - (7) 出場する選手は、あらかじめ健康診断を受け、在学する学校長の承認を必要とする。
 - (8) 参加資格の特例による学校の参加については、長崎県高等学校総合体育大会開催基準要項の通りとする。
 - (9) 脳震盪について、選手および指導者は下記事項を遵守すること。
 - ①大会前1ヶ月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察を受け、出場の許可を得ること。
 - ②大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。
(なお、至急、専門医(脳神経外科)の精査を受けること。)
 - ③練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。

④当該選手の指導者は、大会事務局および（公財）全柔連に対し、書面により事故報告書を提出すること。

(10) 皮膚真菌症（トラズランス感染症）については、発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。もし、選手が皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会の出場ができない場合もある。

(11) 外国人留学生について 団体男・女共1名以内は認める。
個人参加は制限しない。

7 参加申込

① 長崎県高等学校体育連盟ホームページより、オンライン申し込みを行い、参加申し込みを作成する。

② 上記①で作成した申込書をプリントアウトし、令和5年10月25日（水）までに所属学校長の承認を得て、下記あてに提出する

申込先 〒850-0007 長崎市立山5丁目13番1号
県立長崎東高等学校 橋本裕之 宛
TEL 095-826-5281
FAX 095-823-5472

③参加料は大会当日に徴収する。

8 参加負担金 団体1チーム 4,000円
個人1人につき 500円（団体戦に関係なく一人につき500円）

9 競技規定・方法

(1) 競技規程

① 試合は国際柔道連盟試合審判規程（2022-2024）および高体連柔道部申し合せ事項による。

② 団体試合

ア 試合時間は3分とする。

イ 「優勢勝ち」の判定基準は、「技有」又は「僅差」以上とする。但し、「僅差」は「指導差2」とする。チームの内容が同等の場合は、代表選手を任意に選出して代表戦を行う。代表戦における「優勢勝ち」の判定基準は、「技有」又は「僅差」以上とする。得点差がない場合は、延長戦（ゴールデンスコア）を実施し、必ず勝敗を決する。なお、延長戦では「技有」以上の得点、又は「指導」の数に差がついた時点で試合終了とする。

ウ 「技の内容」と「指導」の重み

※【一本勝ち＝反則勝ち＞技有＞僅差】の順とする。

エ チームの勝敗の決定；以下の項目によって勝敗を決定する。

ア) 勝ち数の多いチームを勝ちとする。

イ) ア) で同等の場合は、「一本による勝ち」が多いチームを勝ちとする。

*但し、一本勝ちと反則勝ちは同等とする。

ウ) イ) で同等の場合は、「技有による勝ち」が多いチームを勝ちとする。

エ) ウ) で同等の場合は、代表戦を行う。

オ) リーグ戦における順位は、3勝・2勝1分・2勝1敗・1勝2分・1勝1敗1分・1勝2敗・3分・1敗2分・2敗1分・3敗の順とする。

カ) オ) で同等の場合は、リーグ戦を通じ勝ち数の多いチームを上位とする。

キ) カ) で勝ち数の同じ場合は、「一本」「反則勝ち」による勝ち数の多いチームを上位とする。

ク) キ) で同等の場合は、「技有」による勝ち数の多いチームを上位とする。

ケ) ク) で同等の場合は、「僅差」による勝ち数の多いチームを上位とする。

コ) ケ) で同等の場合は、負け数の少ないチームを上位とする。

サ) コ) で同等の場合は、「一本」「反則勝ち」による負け数の少ないチームを上位とする。

シ) サ) で同等の場合は、「技有」による負け数の少ないチームを上位とする。

ス) シ) で同等の場合は、「僅差」による負け数の少ないチームを上位とする。

セ) ス) で同等の場合は、チームから任意に選出して代表戦を行う。

③ 個人試合

ア 試合時間は3分とする。

イ 「優勢勝ち」の判定基準は、「技有」又は「僅差」以上とする。但し、僅差は「指導差2」とする。評価が同等の場合は、延長戦（ゴールデンスコア）により必ず勝敗を決する。なお、延長戦では「技有」以上の得点、又は「指導」の数に差がついた時点で試合終了とする。

④ 累積による両者同時反則負けの取り扱いについて

ア 個人試合および団体試合の代表戦において、指導の累積によって両者が同時に反則負けになった場合は、得点板（スコア）をリセットして、時間無制限のゴールデンスコア方式の延長戦で勝敗を決する。

イ 延長戦において、指導の累積によって両者が同時に反則負けになった場合は、得点板（スコア）をリセットして、再度、時間無制限のゴールデンスコア方式の延長戦を行い、必ず勝敗を決する。

(2) 試合方法

① 団体戦は、トーナメント方式で行い、決勝リーグを行う。

② 個人戦は、男女別に各7階級とし、トーナメント戦を実施するが、参加者が3名の場合はリーグ戦を行う場合もある。

③ 団体・個人において各地区新人戦の上位チームを若干シードする。

10 競技種別及び参加人員

(1) 団体試合（男子） 監督1名 選手5名 補欠2名

(2) 団体試合（女子） 監督1名 選手3名 補欠1名

(3) 男子団体エントリーについては、3人もしくは4人でも認める。ただし、その際、選手の配列は後ろ詰めとする。女子については、変更なし。

- (4) 個人試合 (男子) 100 kg 超級・100 kg 級・90 kg 級・81 kg 級・73 kg 級・
66 kg 級・60 kg 級

同階級の出場は4名以内とする。

また、全階級で14名以内とするが、各地区大会各階級1位の選手についてはこれに
含めない。

- (5) 個人試合 (女子) 78 kg 超級・78 kg 級・70 kg 級・63 kg 級・57 kg 級・
52 kg 級・48 kg 級

同階級の出場は4名以内とする。

また、全階級で14名以内とするが、各地区大会各階級1位の選手についてはこれに
含めない。

1 1 表 彰 団体、個人とも1, 2, 3位を表彰する。

1 2 抽選会 令和5年10月27日(金) 諫早市小野体育館会議室において、専門部
及び準備委員で行う。

1 3 体重測定 個人計量は11月4日(土) 団体戦終了後実施
開始から1時間までに計量をパスしない者は出場できない。
※個人戦だけ出場する学校は遅れないように集合すること

1 4 その他

- (1) 男子団体1, 2, 3, 4位, 女子団体1, 2, 3位及び個人各階級1, 2位は九州
高等学校新人柔道大会の出場権を得る。(佐賀県開催)
- (2) ベスト8を県高総体, 県選手権でシードする。
- (3) 参加者の少ない階級によっては(2)のかぎりではない。